

学部4回生・大学院生のための  
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート!シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

皆さんこんにちは。

E-learning教材「卒論・研究きちんとスタートシリーズ① 学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」を始めます。

主に、人文・社会科学系の4回生・M1くらいの方を念頭に置いた内容になっております。

## 卒論・研究きちんとスタート！ シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ  
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法  
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

本シリーズ「卒論・研究きちんとスタート」は2つの教材から構成されています。

1つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

文献探索を行い、自分にとって必要と思われる文献の、書誌情報を得る方法を学びます。書誌情報とは、論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のことです。

2つ目は、「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」という教材です。

文献探索を行った結果として得られた、論文の書誌情報をもとに、実際に論文を入手する方法について詳しく学びます。

このように、文献情報を探すというプロセスと、実際にその文献を入手するというプロセスを、2つの教材に分けて解説してゆきます。

## 本講習会の目標

学習目標1：先行研究調査とは何かを知り、その意義を説明できるようになる

学習目標2：「芋づる式」調査の方法を理解し、先行研究調査に活用できる

学習目標3：文献データベースの効果的な利用方法を理解し、先行研究調査に活用できる

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

この教材の学習目標はこの3つです。

前置きは良いから、「とりあえず、効率的に文献を検索する方法を教えてほしい」と思われるかもしれません。

しかし、先行研究調査の意義と全体像を理解してから文献探索を行わないと、必要な文献を取りこぼしてしまう可能性が高くなります。

ですので、学習目標1を踏まえた上で、学習目標2・3で示しているような2つの文献探索アプローチを学んでいきます。

## 本講習会の構成

- I. 先行研究調査とは何か
- II. 「芋づる式」による先行研究調査
- III. 文献データベースについて（概要）
- IV. 文献データベースによる日本語論文の先行研究調査－CiNii Articlesを事例に
- V. 文献データベースによる日本語図書の先行研究調査

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

本教材の構成としては、このような形です。  
第1章が学習目標1に、第2章が学習目標2に、第3章から第5章が学習目標3にそれぞれ対応しています。

# I. 先行研究調査とは何か



それでは、さっそく第1章「先行研究調査とは何か」を始めていきます。

# 先行研究調査とは？

自分の研究したいテーマについて、  
どのような研究がすでに為されているのかを把握すること

## 【手段】文献を「適切に」集めて読む

なぜならば、研究は、基本的に雑誌論文や学術書など「文献」の形で発表されるから。

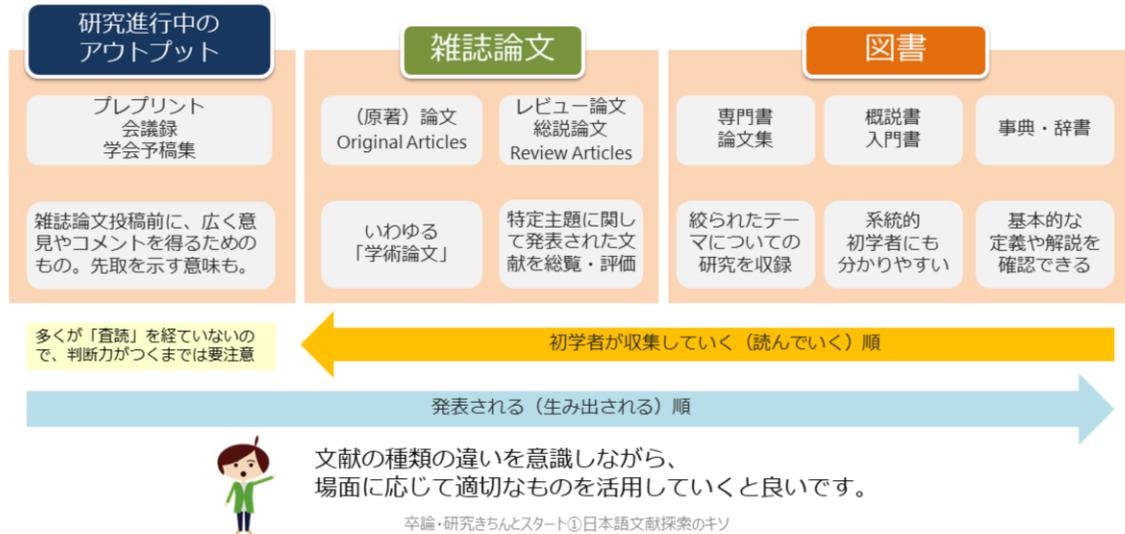
卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

皆さんが論文作成や研究を行う時に、先行研究調査を行う必要があるのはなぜでしょうか。

「先行研究調査」とは自分の研究したいテーマについて、どのような研究がすでに為されているのかを把握することであり、研究の最初に踏むべき手順と言えます。

そして、研究は主に、雑誌論文や学術書などの文献として発表されるので、文献を「適切に」集めて読むことがその基本的な手段となります。この教材を通じて、文献を「適切に」集める、ということがどういうことであるのかを理解していただければと思います。

# 研究の流れと学術文献の関係を意識して使い分ける



一口に「学術文献」といっても、さまざまな種類があり、主なものはこちらです。

生み出される順と読んでいく順が逆であることに気づきましたか？  
その研究が生み出されてから、時間がたてばたつほど議論が深まり、議論を経てまとめられた文献が登場してきます。

先行研究調査というと、論文を探して読もう、と思ってしまいがちです。しかし、その専門分野をこれから学習して行こうという皆さんにとっては、まずは事典や辞書、概説書や入門書など、系統的にまとまった資料から読んで理解を進めていくのがよいでしょう。こういった事典や辞書を確認していくことから、先行研究調査は始まっていくのです。

# 先行研究調査の意義：「学習者」として

## 自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむ

学習として（既存の認識や専門用語を知る）  
研究史を把握する  
調査手段や分析手段を知る

事典類や概説書で、  
定義や解説、研究史を理解する。  
↓  
専門書や論文で、  
研究における実際の活用事例を知る。

## 先行研究の限界や問題点・意見が対立している点を整理する

自分の研究テーマを設定していく・絞っていくための大きな手掛かりとなる  
⇒研究者としての意義にもつながる

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先行研究調査には、学習者としての意義と研究者としての意義があります。

まずは「学習者」としての意義です。先行研究調査は、自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむことにつながります。

先行研究を読むことで、その分野における既存の認識や専門用語、研究史、調査手段や分析手段を学ぶことができます。

最初に事典類や概説書で定義や解説・研究史を読んで基本を理解した上で、専門書や論文に進み、実際の研究の中でどのように用語や理論、調査・分析手段が活用されているのかを知っていくようにすると良いでしょう。

さらに、先行研究の限界や問題点を整理することもできます。

このことは、自分の研究テーマを絞っていくための大きな手掛かりとなりますので、研究者としての意義にもつながっていくといえるでしょう。

研究者によって意見が対立している点にも着目・整理しておくことで、テーマ設定の助けになるでしょう。

# 先行研究調査の意義：「研究者」として

自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すために

研究 = 既存の知識・認識に新しい知識・認識を追加すること

「新しさ」もさまざま：事象として、理論として、切り口として

論文では、既存の知識・認識を示したうえで、「新しい」知識・認識を論証していく



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先行研究調査の「研究者」としての最大の意義は、このスライドで示している点です。

研究とは、既存の知識に「新しい」知識を追加することです。「新しく」無いと研究とは言えないわけです。

何が新しい知識かどうかを判断するためには、既存の知識である先行研究をできるだけ広く調査するしかありません。

必要とされる「新しさ」は研究分野によっても違いますし、研究者としての段階によっても違ってきます。例えば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なります。

自分が取り組もうとしている内容が「新しい」研究と言えるのかどうかは、先生から随時アドバイスをいただくのが良いでしょう。

論文では、これまで研究されたことを示したうえで、自分の研究の新しさ、すなわち、研究の意義を示す必要があります。

実際に論文に書いていく必要がある、という意味でも、先行研究調査は研究に欠かせないプロセスと言えるでしょう。

## 2つのアプローチ

### 文献データベースによる検索

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット：適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット：使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

### 参考文献をたどる[芋づる式]

注目した論文を軸に、引用をたどっていく

メリット：研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット：参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先行研究調査には主に2つの方法があります。

1つ目は、文献データベースによる検索です。

「文献検索」と聞いて皆さんがまず思い浮かべるのはこちらではないでしょうか。

メリットとしては、適切に活用すれば、多くの文献を発見できることがあります。一方、デメリットとしては、使い方を誤ると見逃しが多く発生してしまうことがあります。つまり、文献データベースは「適切に」活用することが重要になってきます。

人文社会科学系の日本語文献を検索するためのデータベースは、総じて高度な機能が無く、うまく活用しなければこのようなデメリットが発生しがちです。

本教材の後半では、そういったデータベース検索のコツを中心にご紹介していきます。

もう1つの方法として、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法があります。

次の章では、この「芋づる式」の調査方法について詳しくご紹介します。

文献データベースによる検索および芋づる式調査という2つのアプローチに

は、それぞれにメリット・デメリットがあるので、うまく併用していくことが大切です。

## II. 「芋づる式」による 先行研究調査

卒論・研究きちんとスタート! シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



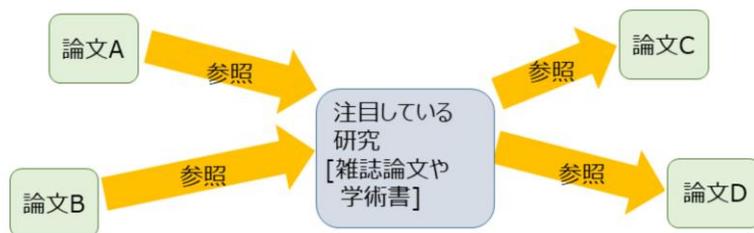
この章では、先行研究調査のアプローチのうちの1つ、「芋づる式」について詳しくみていきます。

# 芋づる式：“連なり”としての研究

## 研究は独立しては存在しないもの

これまでの研究の積み重ねがあって、新しい研究が生まれる

参照した先行研究は、**注や参考文献リスト**として明示するのがルール

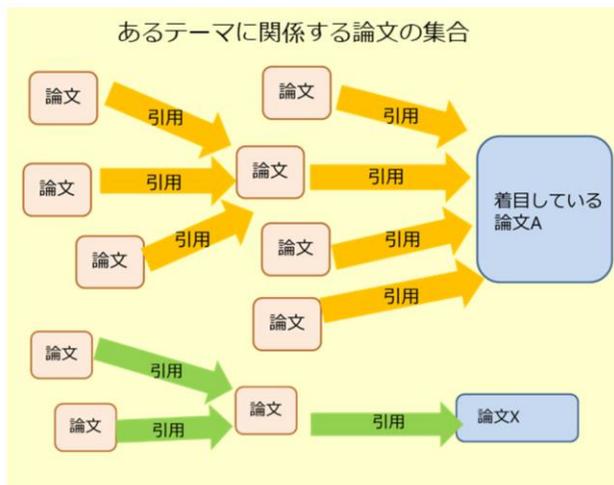


卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

この図のように、今注目している研究があるとき、その研究は他の論文の内容を参照したうえで行われています。そしてこの論文もまた参照されていきます。このように研究とは独立して存在するものではなく、連なりとして存在するものです。

雑誌論文や学術書に、参考文献リストというものがついているのを見たことがあると思います。他の文献を参照した場合には、参考文献リストとして明示する、というのが研究の世界のルールになっています。

# 芋づる式：強みとその限界



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

強み：

無駄無く、過去の関連研究へ遡ることができる

限界：

①文献リストに挙げられていない関連研究を見逃してしまう

②着目した文献より後に発表された論文は別に探索する必要がある

このルールを踏まえて、注目している文献の参考文献リストから関連論文を遡っていく、というのが芋づる式の基本的な調査方法であり、これには、研究の流れをたどりやすいというメリットがあります。この図のようにどんどん関連する過去の研究へ遡っていけますね。データベース検索では、どうしてもテーマと関係ない論文も混ざってきてしまうので、「芋づる式」は無駄のない調査方法であるといえます。

デメリットとしては、この方法だけに頼ると、参照関係に無い、他の関連文献を見逃す恐れがあることが挙げられます。

そして当然ですが、過去にしか遡ることができないので、自分が参照している論文より後に発表された論文については別途調査が必要です。

# 研究初期段階における芋づる式の活用法

## 新しい文献からたどる

基本的に、新しい文献はそれまでの研究を踏まえている

## 専門的なテーマの論文からでは無く、基本文献（次スライド以降参照）からたどる

そのテーマを大きく俯瞰して研究史を整理したような基本文献からたどり始めるほうが漏れが少ない

専門的なテーマの論文の文献リストは、その論文で踏まえるべき文献に予め絞り込まれている

どのような文献であっても、参考文献リストに掲載する文献の選別には、著者・編者の問題意識や評価が入ってきます。  
1つの文献からの芋づる式調査ではどうしても漏れが生じるので、複数の文献を併せて活用するようにしましょう。



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

研究初期段階において、すなわち、研究史を把握していく、という段階においては、この2つが芋づる式活用時の基本ルールとなるでしょう。

まず1つ目として、新しい文献を起点にする、ということです。  
基本的には、新しい文献はそれまでの研究成果を踏まえているはずですが、どの文献を起点にするか迷ったときは、より新しい文献から辿りはじめると良いでしょう。

2つ目として、専門的なテーマの論文では無く、次のスライド以降で紹介するような基本文献を起点とする、ということです。  
専門的なテーマの論文の参考文献リストは、その論文で踏まえるべき細かいテーマの文献にあらかじめ絞り込まれていますので、限られた範囲でしか芋づるをたどれないことが多いです。  
そのテーマを大きく俯瞰して研究史を整理したような基本文献からたどるほうが、先行研究調査として漏れが少なくなるでしょう。

# 研究初期段階で起点とする基本文献

## 参考図書（事典・辞書・ハンドブック・便覧など）

各項目の解説中の参考文献⇒そのテーマの基本文献の可能性が高い  
参考図書の中でも、専門家コミュニティで編集されているもの（学会名で編集されている、各項目ごとに専門家が分担執筆している等）がおススメ

## 概説書・入門書

その分野の代表的な概説書・入門書に挙がっている参考文献  
初学者向けの文献リストが用意されているものも



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

とくに初めてそのテーマの先行研究調査を行うときに、芋づるの起点とするのにお勧めなのが、このスライドに示すような文献です。

まず1つ目が事典類です。

事典類の各項目の終わりに、参考文献が示してある場合があります。それらは、そのテーマの基本文献である可能性が高いです。

事典類といってもさまざまなものがありますが、専門家コミュニティで編集されている事典類があれば、解説内容も参考文献も、より信頼度が高いものと言えるでしょう。

専門家コミュニティで編集されているものとは、たとえば、学会名で編集されているものや、多くの専門家が編集に参加していてテーマ毎に分担して執筆しているものなどです。

次に、概説書・入門書等の学術書です。

教科書も含めて、その分野の代表的な概説書・入門書に挙がっている参考文献は、基本文献である可能性が高いです。

親切に、初学者向けの文献リスト・読書案内を用意してくれているようなものもあります。ぜひ有効に活用していきましょう。

# 研究初期段階で起点とする基本文献

## 専門書

専門書の序章などで、研究史の整理がされていれば起点として有効

## レビュー論文

そのテーマに関する文献を総覧・評価⇒多くの文献への起点となる

統一的な名称はないが、例えば「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」といった論題が付けられている。雑誌によっては、定期的にレビュー論文が掲載されるものもある。

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

次に紹介するのがこちらのスライドの2つです。

まず、専門書は本文の内容が難しく少し取っ付きにくいかもしれませんが、序章などで研究史の整理がされていることが多くあります。研究史の整理で挙げられている文献を起点とすると、重要文献を拾っていくことができるでしょう。

次に、レビュー論文です。

これも、あるテーマに関する研究史を整理するもので、多くの文献情報を得ることができます。

決まった論題が付いている訳ではないのですが、例えば、「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」といった名称がつけられています。

学問分野ごとに学術雑誌が出版されていますが、雑誌の中には、定期的にレビュー論文を掲載するようなものもあります。

とはいえ、どの文献が起点とするのにふさわしい基本文献であるかを見極めるのは、初学者には難しい問題です。

自分でも候補となる文献を考えてみた上で、よりふさわしい文献が無いか、先生にアドバイスをもらうのが良いでしょう。

初学者の段階を過ぎて、ある程度研究を進めてからは、着目した論文を起点に、自分なりに取捨選択や工夫を行いながら芋づるをたどっていくことになります。

芋づる式の調査方法について、ご紹介しました。次の章からは、「文献データベースによる検索」の方法について詳しくご紹介していきます。

# III.文献データベースについて（概要）

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。

# GoogleやGoogle Scholarは 先行研究調査に向いていない

## 網羅性の問題

収録範囲が示されていない=何を検索できているか分からない

⇨できるだけ広く文献を探したいという先行研究調査の趣旨との齟齬

## 検索性の問題

検索条件を細かく設定できない、並び替えや絞り込み機能の弱さ

## 書誌情報が整理されていない

正確な書誌情報が得られないと選別・入手作業へ進むのが難しい

## とくにGoogleは、対象が学術情報（学術文献）に限定されていない

ノイズ（求めている情報=ここでは学術文献で無いもの）がかなり多い

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

文献の「検索」と聞いて、まずGoogleやGoogle Scholarを思い浮かべる方も多かもしれません。

もちろんある程度の検索はできるわけですが、先行研究調査という目的で使用するには、ここに挙げているような問題点があります。

1つ目は、網羅性の問題です。GoogleやGoogle Scholarでは、何が収録されていて何が収録されていないかがブラックボックスです。重要文献が収録対象から漏れている可能性を排除できません。

2つ目は、検索性の問題です。検索条件を細かく設定できなかつたり、並び替えや絞り込み機能の弱さがあつたりします。また、上位に表示される文献がどういう基準で選ばれているのかが分かりません。

3つ目は、書誌情報が整理されていないことです。書誌情報というのは、論文のタイトル、著者名、掲載雑誌名、出版年などのことを指します。インターフェース上の書誌情報がまちまちであるため、検索結果の中から必要な文献を選別作業していくことが難しいです。また、荒い書誌情報のものも検索結果に含まれるため、その情報をもとに文献入手することが難しいものもあります。

## 対象に応じてツールを使い分ける

学術文献の検索に特化したデータベースが多数存在する

利用が有料のものも多い。阪大で多数契約していて所属者は利用できる

学術文献も対象によって使う文献データベースが異なる

区分としては…研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文

使い分けの必要がある、というのは一般の情報検索と同じ

カレー屋を検索するサイトと、ホテルを検索するサイトは違う。

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト=文献データベースがある  
ということ意識する。

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化したデータベースが存在します。

学術文献の中でも対象によって使う文献データベースが異なってきます。  
対象の主な区分方法としては、研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文の主に3つです。

対象による使い分けがあるというのは、一般の情報検索と同じです。  
例えば、美味しいカレー屋さんを検索するサイトと、旅行先のホテルを検索するサイトは違いますよね。  
「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト、すなわち、文献データベースがある、ということ意識してください。

# 文献データベースの機能

## 文献データベースのメイン機能

文献情報（＝書誌情報）を収集・整理して提供すること

## 付加価値としてのPDFファイルやフルテキストリンク

あくまでそのデータベースが提供できる範囲でのファイルやリンク

大阪大学で読むことができる論文が、全て利用できるようになっていない

大阪大学で読むことができる論文＝良い論文とも限らない

## 先行研究調査では、検索と入手を切り分けて考えよう！

文献データベースでは、まず「検索」に専念し、書誌情報を得る

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ここで、文献データベースの機能について、きちんと理解してもらいたいことをお伝えします。

まず第1に、文献データベースのメインの機能は、収集した書誌情報を整理して検索する人に提供する、ということです。「書誌情報」というところがポイントです。

最近は、文献データベース上でPDFファイルを読めることが多いのですが、それはあくまで付加的な機能です。

文献データベース側で、大阪大学で読める全ての論文のPDFファイルを掲載している訳では無いので注意しましょう。

また、そもそも、大阪大学で読むことができる論文が良い論文とも限りません。その研究分野で鍵となる論文が大阪大学では読めない、ということもあるでしょう。

先行研究調査では検索と入手を切り分けることが大切です。

文献データベースでは、まず「検索」によって、必要と思われる文献の書誌情報を得ることに専念しましょう。

# IV.文献データベースによる 日本語論文の先行研究調査 －CiNii Articlesを事例に



それでは、具体的に、データベースを活用した日本語論文の先行研究調査方法についてご案内していきます。

# 適切なデータベースの選択：雑誌論文

## 全分野型 or 特定分野 / 日本語文献 or 海外文献 のマトリクス

分野	国内論文	海外論文
全分野	Cinii Articles	Web of Science Scopus
国文学	国文学論文目録データベース	
日本語学	日本語研究・日本語教育文献データベース	
経済学		EconLit
教育学	教育研究論文索引	ERIC
社会学		SocINDEX
医学	医中誌Web	MEDLINE
自然科学・工学	J-DreamIII	

特定分野のデータベースの  
ほうが一般的に、  
・その分野に関して、収録論文が多い  
・より高度な検索が可能  
(シソーラス等⇒補遺参照)

これらは一例です。  
附属図書館Webサイトの  
データベース一覧を一度  
チェックしてみてください。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/dblist/>

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

雑誌論文の情報を検索するためのデータベースは、2つの区分から選択するのが基本となります。

1つ目の区分は、全分野型か特定分野型かというもの。2つ目の区分は国内論文か、海外論文かというものです。

全分野型があれば特定分野型のデータベースは要らないのでは？と思われるかもしれません。特定分野型のデータベースのメリットとしては、全分野型よりもその分野ではより多くの論文を収録していたり、より高度な検索機能があったりする点です。例えば、同じキーワードを入力したときにどんな論文がヒットしてくるか、を見比べてみるのもいいでしょう。

自分の検索対象に合ったデータベースを使っていきましょう。

# CiNii Articles とは

## 日本語論文を探すための文献データベースの代表格

主に日本語の雑誌論文が対象  
分野を限定せず、幅広く収録  
検索機能は残念ながら強くないので、  
工夫して利用する必要がある（後述）



<https://ci.nii.ac.jp/>

## 具体例としてCiNii Articlesを使う理由

とくに人文社会科学系では特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、実質的にCiNii Articles一択であるため  
この後紹介する検索の考え方は他のデータベースを利用する際にも通じる

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ここからCiNii Articlesというデータベースを使って、具体的に日本語論文検索の方法を見ていきます。

CiNii Articlesは、1つ前のスライドの表にあったように、全分野型で、主に日本語の雑誌論文を対象としています。

文献の中でも、事典類や学術書などの図書は検索対象ではなく、雑誌論文のみを対象としたデータベースです。

とくに人文社会科学系では、特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、実質的にCiNii Articles一択であるため、このデータベースを使って説明します。

具体的な操作方法というよりも、検索の際のコツを中心に紹介しますので、他のデータベースも同じような考え方で活用していただくことができます。

# 検索例題

## SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

—対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ

論文検索	著者検索	全文検索
SNS ヘイトスピーチ		検索
すべて	本文あり	▼ 詳細検索

「SNS ヘイトスピーチ」で検索  
→4件しかヒットしない。  
もっと文献がありそうな気がするのだけれど…



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

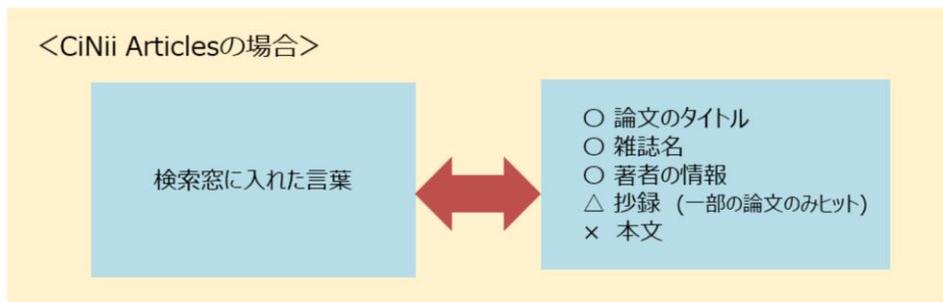
検索例題としてはこちらです。日本語資料を対象に、「SNSとヘイトスピーチの関係性について」とうテーマで先行研究調査を行います。まず思いつく2つのキーワード「SNS」と「ヘイトスピーチ」を入力して検索してみたところ、4件のみのヒットでした。

本当にこのテーマの論文はこんなに少ないのでしょうか？  
この後、いくつかのポイントを解説しながら、検証していきます。

## ポイント1：データベースの検索方式

CiNii Articlesは単純なキーワード検索方式

検索窓に入れた言葉と、論文タイトルなどで使われている言葉が完全に一致すれば、検索結果として返ってくる。



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

まず1つ目のポイントとして、データベースの検索方式です。

CiNii Articlesは単純なキーワード検索方式のデータベースに分類されます。入力したキーワードそのものが、論文タイトルや雑誌名、著者の情報に入っていればヒットします。

入力したキーワードと少しでも違うとヒットしません。意味が似ているとか、そういったことは全然考慮してくれません。

# ポイント1：データベースの検索方式

**完全に一致**しないとヒットしないとはどういうことか

例えば以下の論文だと…

「SNS ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「ツイッター ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「twitter ヘイトスピーチ」→ヒットする

人の目で見れば、  
関係のある論文なのは明らかなのに…



## 品詞タグを利用したTwitterにおけるヘイトスピーチの検出 (知的環境とセンサネットワーク)

渡辺 創, Bouazizi Mondher, 大槻 知明

電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 116(407), 7-12, 2017-01-19

大阪大学リソルバ

大阪大学OPAC

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

例えば、画面上に表示されているこの論文についてみてみます。

「SNS スペース ヘイトスピーチ」や「カタカナのツイッター スペース ヘイトスピーチ」ではヒットせず、「英語のtwitter スペース ヘイトスピーチ」とするとヒットします。

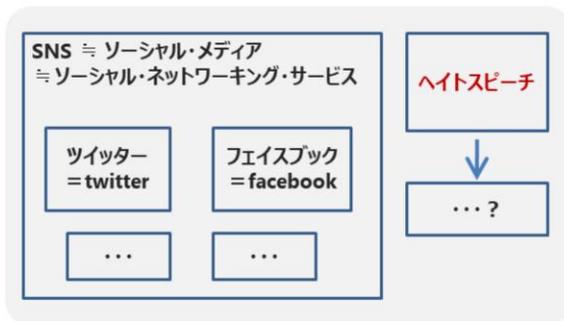
単純に、論文のタイトルに含まれているのが英語のtwitterですので、英語でtwitterと入力しないとヒットしないわけです。

CiNii Articlesに限らず、文献検索のデータベースでキーワード検索する場合、こういう方式で検索されることが多いです。

不要な検索結果は減りますが、必要な結果も見逃してしまう恐れがあります。そのため、ポイント2のような工夫が必要となってきます。

## ポイント2：キーワードの検討

キーワード検索方式の場合、キーワードの選択がとても重要  
同義語、類義語、上位/下位語を検討する



自分でうまく思いつかないときは、  
参考図書などを使って探してみましょう。

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先ほどの例でも見たとおり、キーワード検索方式の場合、キーワードとして何を選択するかが検索結果に直結してきます。

そのため、キーワードをしっかりと検討することが大切です。これが2つ目のポイントです。

同じ意味のことばである同義語や、似た意味のことばである類義語だけでなく、そのことばを含むより広い概念の上位語、そのことばの中に含まれるより狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

たとえば、SNSというキーワードは「ソーシャル・メディア」「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」という表現がされているかもしれません。また下位語としては、ツイッターやフェイスブックといった、具体的なサービス名称で表現されていることも考えられるでしょう。

そしてさらに、それぞれのサービス名称についても、言い換えや表記方法の違いを考えてみる必要があります。

次にヘイトスピーチというキーワードについてです。自分で考えてみたけれど、他のキーワードがうまく見つからないというときは、参考図書などを使って探してみるといいでしょう。

## ポイント2：キーワードの検討

### 百科事典や辞書類（冊子/オンライン）

- 例：JapanKnowledge Lib 複数の辞書・事典をまとめて検索できる
- －附属図書館Webサイトのクイックサーチ中「データベース」タブから
  - －自宅から使うときは、附属図書館Webサイト右側の  から

### 関連する単語を視覚的に得ることができるツール

国立国会図書館「リサーチ・ナビ」

<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

検索結果「キーワード」タブから関連キーワードとマップを得られる

科学技術振興機構(JST)「シソーラスmap」

<https://thesaurus-map.jst.go.jp/>

科学技術分野の専門用語を中心に

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

参考図書とは、百科事典や辞書類などのことです。

定義を調べるときに使うというイメージがあると思いますが、同義語や類義語などを探すのにも便利です。自分の研究テーマを含むような専門事典がある場合は、それを使うのが望ましいでしょう。

参考図書にはオンラインで使えるものもあり、例えばJapanKnowledge Libは複数の辞書・事典をまとめて検索できます。

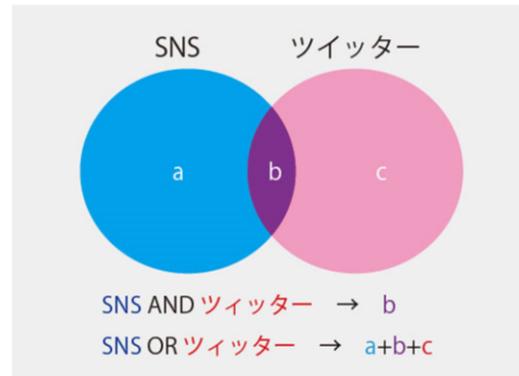
JapanKnowledge Libは、自宅からも使うことができます。附属図書館Webサイト右側の「キャンパス外から電子リソースを使う」からアクセスしてください。

他に、便利に使える無料ツールとして、国立国会図書館リサーチナビや、科学技術振興機構のシソーラスmapがあります。

## ポイント3：論理演算（AND/OR など）

種類	CiNii Articlesでの入力方法
AND 検索	SNS△ツイッター 「SNS」と「ツイッター」両方の キーワードを含む資料を検索
OR 検索	SNS△OR△ツイッター 「SNS」もしくは「ツイッター」の どちらかのキーワードを含む資料を検索

※「△」はスペース（半角でも全角でもOK）



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

3つ目のポイントは、論理演算です。論理演算を駆使することで、集めたキーワードを有効に活用できます。

最もよく使う論理演算としては、AND検索とOR検索、この2つがあります。AND検索は入力した全てのキーワードを含むもの、という検索です。CiNii Articlesではキーワードの間にスペースを入れるとAND検索になります。AND検索は、一般的な検索のイメージとして皆さんがお持ちの検索方法かなと思います。

もう一つはOR検索です。こちらは入力したキーワードのどれか1つを含めば良い、という検索方法です。CiNii Articlesではキーワードの間に「スペース 大文字のOR スペース」と入力することで、OR検索ができます。

単純に言いますと、AND検索は検索結果を減らすことにつながり、OR検索は増やすことにつながります。

## ポイント3：論理演算（AND/OR など）

### キーワード検索方式

不要な論文のヒットは少なくなるが、必要な論文も漏れてしまう恐れ

### OR検索を有効に使用する

ポイント2で得た同義語、類義語、上位/下位語をOR検索で活用する  
より漏れが少ない形での検索ができる

データベースによって、  
・使用できる論理演算の種類  
・その論理演算の入力方法  
は異なります。  
新しいデータベースを使う時は、ヘルプを確認してみると良いです。



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ポイント1で見たとおり、キーワード検索方式のデータベースは、自分で入力したキーワードに完全に一致しなければヒットしません。そのため、不要な論文のヒットは少なくなるのですが、必要な論文も漏れてしまう恐れがあります。先行研究調査では、「できるだけ広く・漏れなく」論文を探すことを目指すので、これでは少し問題がありますよね。

その問題点を補うことができるのがOR検索です。ポイント2で得た複数のキーワードをOR検索で活用することで、より漏れが少ない形での検索ができます。

データベースによって、使用できる論理演算の種類や入力方法が異なってきます。新しいデータベースを使うときは、ヘルプページやマニュアルを確認していただくことをお勧めします。

# 検索例題を実際にやってみよう

検索例題：

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

—対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ

—使用するデータベースはCiNii Articles

<https://ci.nii.ac.jp/>

- ・検索式の中の「△」はスペース。半角でも全角でもOK。
- ・CiNiiでは「・」は無視されます。「ヘイトスピーチ」と「ヘイト・スピーチ」の検索結果は同じです。
- ・CiNiiでは()で囲んだ箇所はグループとなって、検索式上で優先されます。
- ・ヒット件数は2020年9月18日時点

## 検索式①「SNS△ヘイトスピーチ」

The screenshot shows the CiNii search interface. At the top, there are three tabs: '論文検索' (Article Search), '著者検索' (Author Search), and '全文検索' (Full Text Search). The search input field contains the text 'SNS △ヘイトスピーチ'. To the right of the input field is a '検索' (Search) button. Below the input field, there are two buttons: 'すべて' (All) and '本文あり' (Full Text Available). To the right of these buttons is a dropdown menu with a downward arrow and the text '詳細検索' (Advanced Search). A yellow circular badge with the number '4件' (4 items) is overlaid on the search results area.

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先に少し触れましたとおり、「SNS スペース ヘイトスピーチ」では4件しかヒットしませんでした。これはSNSとヘイトスピーチのAND検索をしていますね。

検索結果を増やすために、まずはSNSのほうの同義語、類義語、上位/下位語を検討します。

# 検索例題を実際にやってみよう

## 改善策の検討

- ・件数が明らかに少ないので、「SNS」の同義語、類義語、上位/下位語を検討
- ・同義語として、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」と「ソーシャル・メディア」
- ・とくに広く使われている「SNS」としてtwitterとfacebookを下位語に想定。もれなく探すため、日本語表記と英語表記を両方キーワードに入れる。

## 検索式②

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△ヘイトスピーチ

6件

「SNS」のキーワードの広げ方としては悪くなさそうだが…

- ・検索式「SNS」→約6,000件
- ・検索式「SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook」→約11,000件と倍近く増加

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

SNS自体の言いかえを、ソーシャル・ネットワーキング・サービス、ソーシャル・メディア、と2種類用意しました。また、とくに広く使われているSNSとして、twitterとfacebookも使ってみましょう。日本語論文であっても、twitterやfacebookは、英語表記とカタカナ表記の両方が使われる可能性があるのでどちらも候補に入れます。

そして、全てを「スペース 大文字OR スペース」でつなげます。()でくくると、その部分をグループ化することができます。ここまで考えたSNSのグループとヘイトスピーチとのAND検索という形で改めて検索してみます。そうすると、結果は6件でした。残念ながらあまり増えていませんね。SNSだけで検索すると約6000件、先ほど考えたSNSの同義語グループで検索すると約11000件と倍近く件数が増えるので、「SNS」側のキーワードの広げ方としては悪く無さそうです。ですので、次は「ヘイトスピーチ」のほうのキーワードを広げることを考えてみます。

# 検索例題を実際にやってみよう

## 改善策の検討

- ・「ヘイトスピーチ」側のキーワードを広げることを考える
- ・自分でうまく関連キーワードを思いつかないときは、ポイント2で紹介した参考図書やツール類を使用
- ・国立国会図書館リサーチ・ナビで「ヘイトスピーチ」を検索し、キーワードのマップを見たところ、「差別」「人権」「表現の自由」「言論の自由」といった関連キーワードを入手できた。

## 検索式③

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイトスピーチ△OR△差別△OR△人権△OR△表現の自由△OR△言論の自由)

50件

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

自分では同義語などが思い浮かばないときは、ポイント2で紹介した参考図書やWebサイトを使うと良いでしょう。

例えば、国立国会図書館リサーチナビで、「ヘイトスピーチ」のキーワードのマップを見てみたところ、「差別」「人権」「表現の自由」「言論の自由」といった関連するキーワードを入手できました。

これらを使って改めてOR検索を行ってみます。

ヘイトスピーチのほうもスペース大文字ORスペースでつなぎ、()でくくってグループ化すれば良いですね。そして2つのグループをスペースで繋いでAND検索します。

そうすると50件でした。ある程度増えましたね。

# 検索例題を実際にやってみよう

## 改善策の検討

・検索結果の論文タイトルを眺めていると「規制」も関連キーワードとして使えるのではないかと思われた。

SNSを規制する議論が起こる背景の1つとしてヘイトスピーチがあるのではないか、という推測。

目 表現の自由の保障切り下げを危惧：ネットでの誹謗中傷を巡るSNS規制の論点

森 亮二

新聞研究 (827), 46-49, 2020-08

大阪大学リソルバ

大阪大学OPAC

目 ドイツのSNS対策法：法規制と表現の自由 (特集 ネット上の人権侵害：法規制と表現の自由)

## 検索式④

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイトスピーチ△OR△差別△OR△人権△OR△表現の自由△OR△言論の自由△OR△規制)

106件

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ここで終えてもいいのですが、もう少し検索結果を広げる方法を考えてみましょう。その際にヒントになるのが、検索結果に出てきている論文タイトルなどです。

検索結果を簡単に見ていくと、他にも使えそうなキーワードを得られることが多いです。ここでは「規制」も関連するキーワードとして活用できそうなので使ってみます。

ヘイトスピーチのグループのほうに「規制」をORで追加して検索してみると、106件まで増えました。

最初の4件に比べるとかなり増やすことができました。これでもまだ少ないと思われるときは、ここまで紹介した方法を使って検索式をさらに改良してみてください。

これで検索例題は終了です。

文献データベースを使っての検索は、キーワードや検索式を練ることがとても大事、ということを感じていただけましたか？

# データベース検索で心がけると良いこと

## 予測と検証

自分の直感的な気付きを大切に。

「このキーワードでこれだけしか文献が無いのはおかしい」

→上位/下位語、類義語、同義語を探してみる（ポイント2、ポイント3）

「このキーワードでこんなにたくさん文献がヒットするのは何か変だ」

→検索結果を眺めて、自分の予期しないヒットの仕方をしていないか確認。

キーワードを変更したり、AND検索で検索結果を絞り込んだり。

## 検索式と件数などを記録しておく

記録しておくことで、検索式の調整が簡単に

しばらくしてから、先行研究調査を再度行う際にも便利

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

データベース検索のTipsとして2つご案内しましょう。

1つ目は、予測と検証が大事、ということです。

自分が思っていたよりも、検索結果が少ない・多いという気付きは大切にすると良いです。検索結果を確認するなどして、キーワードや検索式を改良してみましょう。

2つ目は検索式と件数を記録しておくのがおすすめ、ということです。

いろいろな検索式を試していると、どの検索式で良い結果が得られたのかよく分からなくなってきました。各検索式での件数を随時記録しておく、検索式の調整を行いやすいです。

そして、先行研究調査は1度行って終わりではなく、研究を続けていく場合、定期的に調査が必要なタイミングがあります。検索式を記録しておけば、再調査をスムーズに行えます。

# 選別作業：検索式の検討が終わったら

## 検索結果一覧から自分の目で選別

論文のタイトル、抄録（あれば）、掲載された雑誌 などをもとに無理に検索式で絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがある。100～200件程度ならば、人目でじゅうぶんに選別可能。

## 「すぐに入手できるかどうか」は選別基準に入れないこと

データベース画面上で見るとPDFファイルがあるものに引っ張られがち  
→いったん検索結果を印刷したり、エクセルのリストに出力したりするほうが、まんべんなく目を通しやすい

## 選別作業が完了して初めて入手作業へ進む！

具体的な入手方法についてはきちんとスタート②へ

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

ある程度納得できる検索式を得られたら、検索結果からの選別は自分の目で行います。

無理に検索式で件数を絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがあります。100～200件程度ならば、じゅうぶんに選別可能ですので絞り込みすぎないようにしましょう。

論文のタイトルや掲載された雑誌名などをもとに選別していきます。CiNii Articlesは論文の要約にあたる抄録が含まれているものもありますので、抄録を参考にして選別するのも良いでしょう。

その時に、「入手できるかどうか」は選別基準に入れないでください。データベース画面上ではどうしてもPDFファイルがあるものに惹かれがちです。

ただ、先にもお伝えしました通り、PDFファイルが読めなくても重要論文である可能性も大いにありますので、入手可否はひとまず考えずに選別作業を行きましょう。

そして、選別作業が完了してからはじめて、実際の入手作業を行います。この入手作業については、2つ目の教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」でご紹介します。

# V.文献データベースによる 日本語図書の研究調査

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



次に、文献データベースを使った、日本語図書の研究調査について解説していきます。

# 適切なデータベースの選択：図書

## 図書のデータベース≒蔵書検索システム

基本的には、所蔵しているかどうか/どこに所蔵しているのかを調べるためのもの  
図書として出版されている先行研究の調査にも援用できる

## 所蔵している機関によって収録データベースが異なる

大阪大学の蔵書 → 「大阪大学OPAC」 ※各大学のOPACがある

国内の大学・研究機関の蔵書をまとめて → 「CiNii Books」

国立国会図書館 → 「国立国会図書館オンライン」

国立国会図書館+都道府県立図書館+政令指定都市立中央図書館 → 「NDLサーチ」

都道府県内の公共図書館をまとめて → 「カーリル」「大阪府立図書館横断検索」等

海外の図書館 → 「WorldCat」等

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

図書を対象としたデータベースは、どこに所蔵しているのか、という蔵書検索システムとしての性質を持っていることが多いです。

これらのデータベースは、欲しい図書がどこにあるかを調べることができるだけでなく、図書として出版されている先行研究の調査にも活用することができます。

所蔵している機関によって収録データベースが異なる、ということ意識してください。

機関ごとに作成されているものもあれば、複数の機関の蔵書をまとめて検索できるものもあります。

## 適切なデータベースの選択：図書

日本語の**学術書**の検索については、基本的には以下2つで足りる

<b>CiNii Books</b>	国内の大学・研究機関の図書館所蔵資料がほとんど収録されている。
<b>国立国会図書館オンライン</b>	国立国会図書館法によって、国内で出版された出版物は国立国会図書館への納入義務があるため、国内で出版された図書のうちかなり多くを所蔵している。 *ただし、時代を遡っていくと収集率は下がっていくことに留意

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

日本語の学術書の先行研究調査にあたっては、基本的にはCiNii Booksと国立国会図書館オンラインの2つで足りるでしょう。

CiNii Booksには、国内の大学・研究機関の所蔵資料のほぼ全体が収録されていますので、まずはCiNii Booksを活用するのが基本となります。

日本語の学術書であれば、基本的にはどこかの大学・研究機関の図書館で所蔵していると考えられるためです。

CiNii Booksに登録が無いものは、かなり希少なもの・ニッチな分野のものであるか、出版されたばかりでまだ所蔵されていないかのどちらかでしょう。

国立国会図書館オンラインでは、国立国会図書館所蔵資料を検索することができます。

CiNii Booksに収録のない資料も、国立国会図書館オンラインで見つかることがあるので、併せて検索してみると良いでしょう。

## 図書を検索するときのポイント

### 書名・著者名に含むキーワードでしか検索できないと想定する

多くのデータベースにおいて、これが基本

自分の入れたキーワードと文字列として一致するかどうか

### キーワードの検討がとても大切

日本語論文調査の章でも触れた、同義語や類義語を検討する

とくに大切なのが「上位語」（ある概念を含むより広い概念）

←図書は中身の分量が多いので、自分で思いつくキーワードよりも、広い概念が書名に入っていることが多い

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

図書を検索する際は、論文を検索するとき以上にキーワードの検討が大切です。

図書を検索できる多くのデータベースでは、目次を検索できず、書名・著者名などに対してしかキーワード検索できません。

論文にくらべて、図書は扱っている内容の分量が多いため、自分で思いついたキーワードよりも、広い概念が書名になっていることが多いです。

そのため、自分の入力したキーワードでの検索結果が想定より少ない場合は、上位語を検討して再検索してみると良いです。

# CiNii Booksについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

「図書・雑誌検索」タブで、  
目次が検索できるのはほんの一部の資料のみ  
AND, OR検索方法はCiNii Articlesと同じ



<https://ci.nii.ac.jp/books/>

「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明を検索できる資料が増える

ただし、あくまで目次データを持っている資料のみ（全ての資料では無いので注意！）

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

CiNii Booksについてももう少しご紹介します。

CiNii Booksでは、「図書・雑誌検索」タブが初期選択されています。

この状態ですと、目次が検索できるのはほんの一部の資料のみで、基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できません。

ここから、「内容検索」タブに切り替えると、目次や内容説明を検索できる資料が増えます。

「図書・雑誌検索」タブでの検索で、ヒットする資料が少ない場合は、「内容検索」タブを試してみても良いでしょう。

ただし、あくまで目次データが付与されている資料のみで、全ての資料に対して目次を検索出来ているわけではないので注意が必要です。

## [参考] CiNii Booksで大阪大学所蔵資料を確認しやすくする方法

CiNii Booksを「大阪大学」モードにすると、大阪大学所蔵資料が一番上に表示されて便利

キャンパス内からであれば、自動でこのモードになる

The screenshot shows the CiNii Books search results for the book 'ドナウの南とエルベの東：ドイツの二大文化圏：ドイツ地誌入門' by 鈴木 真幸. The page is filtered to show results from '大阪大学' (Osaka University). The top results are from '大阪大学 附属図書館' (Osaka University Library) and are highlighted with a blue box. A blue callout box on the right points to these results with the text '大阪大学の所蔵資料' (Osaka University's collection materials).

図書館名	所蔵有無
大阪大学 附属図書館 外国学図書館	OSAC
大阪大学 附属図書館 総合図書館	OSAC
東京大学 附属図書館 総合図書館	OSAC

CiNii Booksについての補足情報です。

CiNii Booksにキャンパス内からアクセスすると、所蔵図書館リストの一番上に大阪大学の図書館が表示され、大阪大学での所蔵有無が一目でわかって便利です。

# [参考] CiNii Booksで大阪大学所蔵資料を確認しやすくする方法

画面右上の「ログイン」

キャンパス外から

大阪大学  
学術認証フェデレーションログイン

Login to CiNii  
大阪大学個人ID (Personal ID)  
パスワード (Password)  
ログイン(Login)

所属機関:  
京都府立医科大学  
大阪府立大学  
京都府立医科大学  
藤谷大学  
奈良女子大学  
大阪大学  
広島大学  
和歌山大学  
岩手大学

所属機関の学内認証システムでログインする方 ● GakuNin  
(Institutional Login for institutions in Japan.)

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

キャンパス外からアクセスしたときも、大阪大学の図書館を一番上に表示することが可能です。  
方法としてはこのスライドのとおりで、CiNii Books画面右上の「ログイン」から、所属機関に大阪大学を設定し、大阪大学個人IDでログインするという形です。

# 国立国会図書館オンラインについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

目次が検索できるのは一部の資料のみ

AND, OR検索方法はCiNii Articlesと同じ

<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

目次も検索したいときは、資料種別を絞り込まないこと

2つのデータベースで目次データの主な収録年代が違います。

- ・CiNii Booksの「内容検索」は1986年以降が主
- ・国立国会図書館オンラインは1968年頃までが主



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

次に、国立国会図書館オンラインについてです。

こちらでも一部の資料については、目次を対象に検索できますが、基本的には書名・著者名・出版社名などが検索対象です。

2つのデータベースで、目次データの主な収録年代が違います。

CiNii Booksの「内容検索」タブでは主に1986年以降の資料、国立国会図書館オンラインでは主に1968年頃までの資料の目次データが多くなっています。

# OPACでの先行研究調査では不十分か

あくまで大阪大学で所蔵している範囲での検索となる

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ある

大阪大学の図書館で所蔵している資料

→基本的にCiNii Booksに登録されている

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの中身も基本的に含んでいる

例外：電子ブック / 冊子でも古い資料や一部の研究室所蔵資料はCiNii Booksに未登録

OPACも書名・著者名・出版社名などでしか基本的に検索できません  
検索仕様は以下のとおりで、()での掛け合わせはできません。

AND検索 SNS△ツイッター  
OR検索 SNS△+△ツイッター  
※「△」はスペース。半角でも全角でもOK。  
※「+」は必ず半角で入力



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

日本語図書の先行研究調査となると、まずは大阪大学OPACを使っている、という方も多いかもしれません。

大阪大学OPACから検索できる資料はあくまで大阪大学で所蔵している範囲のものです。

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ありますので、大阪大学OPACでの調査だけでは不十分です。

大阪大学の図書館で所蔵している図書は、基本的にCiNii Booksに登録されている、と考えていただいて差し支えありません。

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの収録資料も基本的に検索できています。

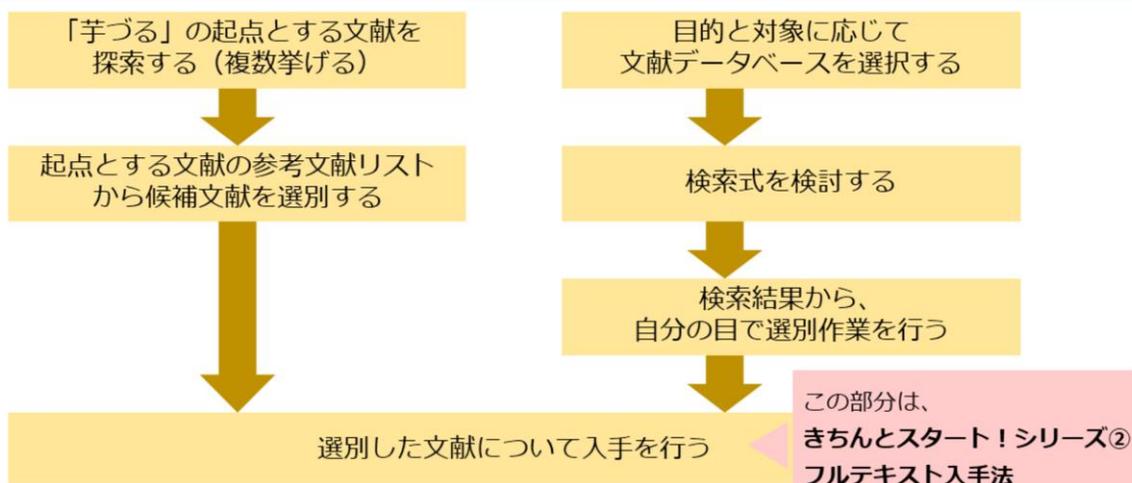
漏れなく正確な先行研究調査を行うという観点からすると、CiNii Booksと国立国会図書館オンラインを活用して、日本語学術書を広く探すほうが良いでしょう。

# まとめ



最後に、本教材のまとめです。

## 先行研究調査での文献探索～入手までの流れ（おさらい）



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

先行研究調査での論文検索から入手までの流れは概ねこのような形です。全体像を理解できましたか？

左側のラインが「芋づる式」の調査方法、右側のラインが文献データベースによる調査方法です。

片方の方法でしかうまく見つけることが出来ない文献もあるはずです。両方の方法をしっかり併用して、漏れの無い先行研究調査へとつなげてゆきましょう。

そして、この内容をぜひ近日中にまずは実践してみてください。実際に手を動かすことで、身に付けて行っていただければと思います。

# ご相談ください

総合図書館参考調査カウンター [平日9:00~17:00]

sogo-ref@library.osaka-u.ac.jp

適切なデータベースの選択 / それぞれのデータベースの使い方  
検索式やキーワードの検討 etc.

対面・メールでの相談の他、オンライン相談も受付中です。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/gakunai/sougou/reference/>



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

そして、実際にやってみると、それぞれのデータベースの使い方や、適切なデータベースの選択、検索式やキーワードの検討などで迷ったり困ったりすることがあるかと思います。

その際は、ぜひ総合図書館参考調査カウンターへご相談ください。

対面・メールでの相談のほか、Zoomを活用したオンラインでの相談も受付中ですので、お気軽にご利用ください。

本教材には事後課題も用意しております。復習や力試しにぜひご活用ください。

受講していただきありがとうございました。

## 参考文献リスト

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房.

秋山哲雄, 田中大喜, 野口華世編(2014)『日本中世史入門：論文を書こう』勉誠出版.

味岡美豊子(2009)『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房.

白井利明, 高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房.

藤田節子(2007)『キーワード検索がわかる』筑摩書房.

村上紀夫(2019)『歴史学で卒業論文を書くために』創元社.

# 補遺： シソーラスを備えた データベース

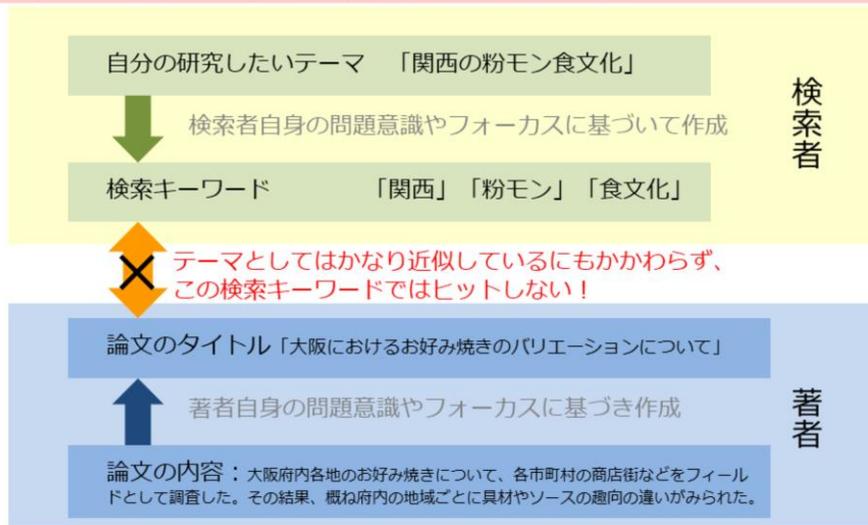
卒論・研究きちんとスタート!シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



ここでは補遺として、シソーラスを備えたデータベースについて紹介します。

# シソーラスの無いデータベースの キーワード検索の仕組み

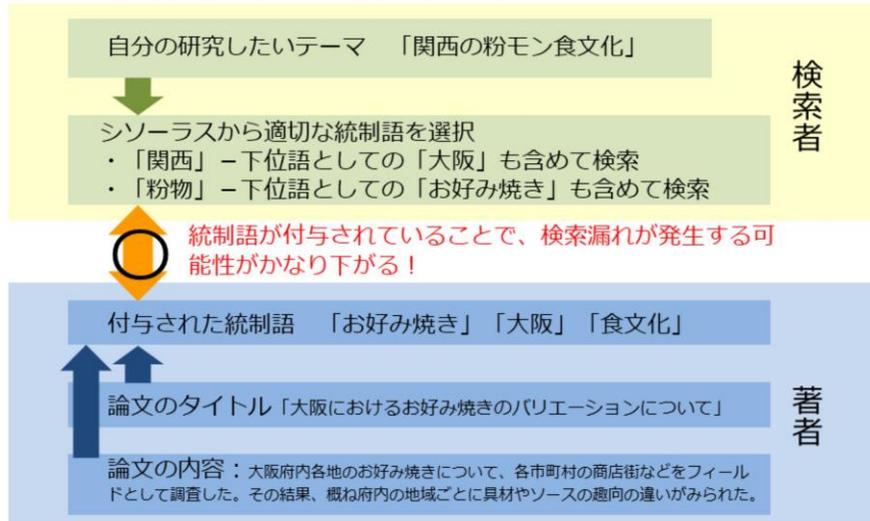


まず、教材の本編でも紹介しました、シソーラスの無いデータベースについてです。

キーワードと論文のタイトル等が完全に一致しないとヒットしない、というお話をしました。

こちらの例でも、「関西」というキーワードでは「大阪」というタイトルがヒットしない、「粉モン」というキーワードでは「お好み焼き」がヒットしない、ということが起こっていますね。

# シソーラスのあるデータベースの 統制語検索の仕組み



一方で、シソーラスのあるデータベースではどうでしょうか。

シソーラスの整備された文献データベースでは、各文献に対して、統一されたタグ＝「統制語」が付与されています。

定められた基準に基づいて、同じテーマを扱う文献には同じ「統制語」が付与されます。

1つの論文のテーマが多面的にとらえられることもよくあるので、その場合は、複数の「統制語」が付与されます。

このようにルール付けされた統制語があれば、その統制語を用いることで、漏れなく検索することができます。

よく整備されたシソーラスのあるデータベースならば、下位語までまとめて検索したりできて大変便利です。

# シソーラスを備えたデータベースを利用するメリット

## 検索漏れが発生しづらくなる

概念ごとに使用することばを決めているので、同義語・類義語を検討する必要がない  
下位語を含んだ検索が可能なデータベースも多い

【注意点】 検索に使用する統制語を選択するのは自分

←統制語の選択を用心して行わないとシソーラスのメリットを発揮できない

先行研究調査はできるだけ「漏れなく」検索したいので、  
シソーラスを備えたデータベースを使うことがおすすめ

卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

シソーラスを備えたデータベースを利用するメリットは、検索漏れが発生しづらくなることです。

同じテーマの論文には同じ統制語が付与されているため、教材の本編で行ったような同義語・類義語を検討する必要がありません。

先の例のように、下記語を含んだ検索が可能なデータベースも多いです。

注意点としては、検索に使用する統制語を選ぶのは自分だということです。

シソーラスの統制語リストを良く見渡して、どの統制語を選ぶか、ということを用意して行わないと検索漏れが起きてしまう恐れがあります。

こういった注意点はありますが、先行研究調査はできるだけ「漏れなく」行うことを目指していますので、

自分の専門分野にシソーラスを備えたデータベースがあるならば、それを使うことがおすすめです。

# シソーラスを備えたデータベースの例

## 日本語論文のデータベース

J-Dream III（自然科学・工学）、医中誌web（医学）

日本語論文のデータベースでは、残念ながら、CiNii Articlesなどシソーラスを備えていないデータベースがほとんど

## 海外論文のデータベース

特定分野型のデータベースは、シソーラスを備えているものが多い  
（シソーラスの付与について、精度はさまざま）

新しく文献データベースを使い始めるときは、  
シソーラスを備えたデータベースかどうか確認してみるの  
がおすすめです。



卒論・研究きちんとスタート①日本語文献探索のキソ

具体的に、シソーラスを備えたデータベースを紹介しましょう。

まず、日本語論文のデータベースです。自然科学・工学分野のJ-DreamIII、医学系の医中誌webが挙げられます。  
残念ながら、日本語論文のデータベースは、シソーラスの無いデータベースがほとんどです。

一方で、海外論文のデータベースについて、特定分野型のデータベースであれば、シソーラスを備えているものが多いです。  
新しい文献データベースを使い始めるときは、シソーラスを備えたデータベースかどうかを確認してみて、シソーラスがあればぜひ有効活用しましょう。